

台風15号による降雨及び強風被害の事後対策について（第三報）

令和元年10月7日
農林水産部担い手支援課

令和元年9月9日に、本県に上陸した台風第15号により県内各地で降雨・強風、停電による被害が発生しました。

つきましては、被害に係る事後技術対策（第三報）を送りますので、技術指導業務の参考にしてください。

【施設野菜】

1 いちご

(1) 栽培管理

多くの品種が花芽分化期を過ぎているため、液肥や葉面散布等を行い、生育を維持しつつ、できるだけ早く定植する。老化苗になってしまった場合は活着しづらいので、活着促進剤等を活用して活着を促す。

(2) 病虫害対策

ア ハウスの破損等により、苗が風雨にさらされたり土がかかった場合は、防除指針に従って炭疽病の薬剤防除を行うとともに、定植時には必ず萎黄病防除薬剤の浸漬等を行って防除に努める。

イ ハウスの破損により、害虫（ハダニ類やアザミウマ類）がハウス内に侵入し、多発することが懸念されるため、防除指針に従って薬剤防除の徹底を図る。

(3) その他

リレー苗を利用する場合、到着後すぐに定植できない場合は、段ボールに梱包したまま8℃の保冷庫で貯蔵する方法がある。試験では、7日間貯蔵した場合でも収量に差は無く、14日間貯蔵ではやや減収した（初期収量は減るが後期収量は確保できる）。

2 トマト

(1) 栽培管理

風雨を受けて葉が傷んだ場合は、樹勢低下が懸念されるため、日中の積極的な換気、窒素成分が主体の葉面散布や追肥を行って樹勢の回復を図る。ただし、摘芯後は原則として追肥は必要ない。

(2) 病虫害対策

ア 台風通過後は、ハウス内が多湿条件となったため、すすかび病や葉かび病が感染しやすい状況であった。引き続き、防除指針に従って薬剤防除の徹底を図るとともに、病葉は積極的に葉欠きを行い、群落内の風通りをよくする。

イ ハウスの破損により、害虫（コナジラミ類やアザミウマ類）がハウス内に侵入し、多発することが懸念されるため、防除指針に従って薬剤防除の徹底を図る。

ウ ハウスの破損、倒壊により、今作のトマトはタバココナジラミの侵入防止対策が

十分とれない状況となっており、例年よりもトマト黄化葉巻病に感染している可能性が高い。このため、発病株は直ちに抜き取るなどして処分し、さらに作が終了した際には、拡大防止のためにも株を放置せず、土中に埋める等処分の徹底を図る。

3 キュウリ

(1) 栽培管理

ア 抑制栽培において、風雨を受けて葉が傷んだ場合は、樹勢低下により尻太果や曲がりが発生しやすくなる。樹勢回復を促すために窒素成分が主体の葉面散布や追肥を行う。また、一度に多くの枚数を摘葉することによっても樹勢が低下するので、1回の摘葉は2枚程度にとどめる。

イ 促成栽培では液肥や葉面散布等を行い、生育を維持しつつ、できるだけ早く定植する。ハウスの修復が遅れ、適期を過ぎてしまった苗は活着しづらいことから、活着促進剤等を活用して活着を促す。また、活着するまでは遮光カーテンを使用し、過剰な光をさえぎる。ただし、遮光カーテンは間口の5～10%程度は開けておく。

(2) 病虫害対策

ア 風雨の吹き込みによる樹の傷みやハウス内の多湿条件により、べと病や褐斑病等の病気が発生しやすい。防除指針に従って薬剤防除の徹底を図るとともに、適度に摘葉を行い、群落内の風通しをよくする。

イ ハウスの破損により害虫（アザミウマ類等）がハウス内に侵入し、多発することが懸念されるため、防除指針に従って薬剤防除の徹底を図る。

4 サヤインゲン

(1) 栽培管理

風雨を受けて樹が傷み、樹勢低下が懸念されるため、葉面散布や追肥を行い、樹勢の維持を図る。ハウス内温度が30℃以上になると落花、落莢、障害果が発生しやすくなるので、換気や遮光を行う。また、乾燥は収量低下につながるため、こまめにかん水を行う。

(2) 病虫害対策

ア 多湿条件下では灰色かび病等の病害が発生しやすいので、防除指針に従って薬剤防除の徹底を図るとともに、適度に摘葉を行い、風通しを良くする。

イ ハウスの破損により害虫（アザミウマ類等）がハウス内に侵入し、多発することが懸念されるため、防除指針に従って薬剤防除の徹底を図る。

【露地野菜】

1 共通

(1) 栽培管理

ア 土砂が流入したほ場では、次作に向けて流入土が作土と十分に混ざるように深耕する。また、堆肥等の施用により物理性の改善を図る。

イ 作物が生育中のほ場では、追肥用化成などを用いて追肥を行い、軽く中耕を行う

ことにより、生育の回復を促す。また、葉色が例年より淡い場合や生育が遅れている場合は、窒素成分が主体の葉面散布剤を用いて生育促進を図る。

2 ニンジン

(1) 栽培管理

ア 特に台風の影響が大きい盆明け（8月15日）以降に播種したほ場では、胚軸がくびれていたり、胚軸が浮き上がっているものを間引く。間引きの際は、残す株に影響が出ないように株元を抑えるようにして引き抜く。

イ 生育が遅れている場合は、例年よりもやや株間を広く間引きし、肥大を促す。

(2) 病害虫対策

黒葉枯病等の予防のため、防除指針に従い殺菌剤を散布する。

3 ネギ

(1) 栽培管理

ア 倒伏からの回復具合を観察し、株元が曲がったまま土壌が固まっている場合は、株元の土壌を三角ホー（草なぎ）などで崩してから手直しする。

イ 今後、育苗ハウスの損傷により、露地やトンネルを用いて育苗する場合は、こまめに観察し、病害虫の発生や葉焼けに注意する。

(2) 病害虫対策

べと病、黒斑病、葉枯病、ネギアザミウマ、ネギハモグリバエの予防のため、防除指針に従い薬剤を散布する。

4 キャベツ

(1) 栽培管理

ア 播きなおす場合は、秋播き春どり（温暖地で9月下旬以降、一般地で10月中旬以降）の品種を選ぶ。

イ 結球が開始する前に追肥専用化成等を条間に均一に散布し、中耕を行う。特に風の影響を受けた株では地際が損傷を受け弱くなっているため、ていねいに中耕する。

(2) 病害虫対策

べと病、菌核病、黒腐病、ヨトウムシ類、コナガ等の予防のため、防除指針に従い薬剤を散布する。

5 ブロッコリー

(1) 栽培管理

ア 生育促進と葉枚数確保のため追肥と土寄せを行う。ブロッコリーは根が浅く、風で地際が弱くなっているため、ていねいに行う。

イ 根傷みしている場合は、ホウ素欠乏症などが出やすくなるため、ホウ素入りの葉面散布剤などを施用する。

(2) 病害虫対策

花蕾腐敗病、べと病、ヨトウムシ類、コナガ等の予防のため、防除指針に従い薬剤を散布する。

6 さつまいも

(1) 栽培管理

ア 冠水したほ場のサツマイモは、掘り上げた後、軒下等に仮置きし、腐敗や傷みがないか確認してから出荷する。

イ ハウスの損傷により簡易貯蔵が難しい場合は、溝穴貯蔵を行う。なお、この方法は3月までの貯蔵とする。

＜溝穴貯蔵の方法＞

(ア) 地下水位が低く大雨時に水が出ない圃場を選択し、幅 60～70cm、深さ 1～1.5m、長さ 10～30m の溝穴を掘る。

(イ) いもは掘り上げて半日程度放置し、なり首のつるを束ねて積み重ねて穴に入れる。

(ウ) いもの上部には 20cm 程度の空間をとる。溝穴の上に支持材を渡し溝穴を覆うように籾殻やわらなどを吸湿保温資材をのせる。

(エ) 冬期には、さらに土をのせて寒さを防ぐ。また、雨よけに厚手のポリやビニールで溝の上にトンネルを張る。

【果 樹】

1 共通

(1) 栽培管理

ア 樹が倒伏したものは、無理のない範囲で徐々に起こし、土寄せし、支柱を立てる。

イ カキ、キウイフルーツなど着果している樹については、枝葉の損傷や落葉が激しい場合は被害程度に応じて着果量を減らし、樹体への負担の軽減や翌年の花芽の充実を図る。

ウ 倒伏などで根に損傷を受けた場合は、礼肥や基肥の施用量を減らし、翌年の生育状況を見て追肥で調節する。

エ 冷凍貯蔵花粉が停電により常温に戻った場合は、発芽試験で発芽率を確認する。花粉が足りない場合は、花粉を購入する手配や花粉採取樹を確保するなど、早めに準備をする。

(2) 病虫害対策

ア 葉の損傷の激しい園では、防除指針に従い殺菌剤を散布し、病原菌の感染を予防して葉を健全に保つようにする。なお、収穫期を控えた果樹に農薬を散布する場合は、特に収穫前使用日数に注意する。

イ 傷害果等は早急に園外に持出し処分する。

ウ キウイフルーツの場合、特に、かいよう病の発生園では、ほ場をよく観察して蔓延に注意をする。

2 ナシ

(1) 栽培管理

ア 落葉がある園では、貯蔵養分の確保と樹勢の維持のため、秋季せん定を控える。

イ 施肥については、落葉があった場合でも、倒伏などがなく根に損傷がない場合は、通常の施用量とする。

ウ 落葉が激しい場合、不時開花が起こって花芽数が不足する懸念がある。また、不時開花まで至らなくても芽の耐凍性が低下してぼけ芽が増えたり、花芽の充実が不十分になったりする場合がある。特に腋花芽は充実不足による影響が出やすい。

このため、せん定の程度を軽くし、できるだけ側枝の更新は控えて充実した花芽の確保に努めるとともに、翌年に側枝の更新が出来るよう予備枝を多めに配置する。

3 イチジク

(1) 栽培管理

結果枝が折れて脇芽が複数発生して込み合う場合は、脇芽の葉を1～2枚残して摘芯し、先端付近の芽の1本を伸ばして支柱に誘引する。

(2) 病虫害対策

風雨後は疫病の発生が懸念されるため、防除指針に従い防除を行う。発生した場合は、薬剤防除に加えて、被害枝葉及び被害果実を速やかに切除し、園外に持出して処分する。

4 ビワ

(1) 栽培管理

ア 倒伏などで根に損傷を受けた場合は、損傷の程度に応じて基肥の施用を控えるか、施用量を減らし、根に直接当たらないように施用する。また、その後の生育状況を見て葉面散布や追肥を行い、樹勢回復に努める。

イ 倒伏により根に損傷を受けた樹は根の損傷程度に応じて、せん定量を調整する。

根の損傷が大きい場合は、せん定量を多めにして葉からの蒸散量を減らし、樹勢の回復を図る。

(2) 病虫害防除

樹体の損傷が多いため、がんしゅ病が発生する恐れがあるので防除指針に従い防除を行う。また、せん定や折れた枝を切る際の切り口に癒合剤を塗布する。

5 ミカン、中晩かん類

(1) 栽培管理

ア 落葉があった樹は、被害の程度に応じて摘果により着果量を減らす。

イ 落葉の程度が激しい場合は、日焼け防止のために幹や太い枝に日焼け防止剤を塗布する。

(2) 病虫害防除

強い風雨により、ミカンでは青かび病、中晩柑類ではかいよう病などの発生の恐れがあるので 防除指針に従い、収穫前日数に注意して防除する。

【花 き】

1 共通

(1) 栽培管理

ア 被覆がはがされて雨風に当たったところは、病虫害が増える可能性が高いため、防除指針に従い、殺虫・殺菌剤の散布を行う。

イ 鉢物は、病気の株を早めに処分し、鉢間隔をとり、通気性を確保する。

2 シクラメン

(1) 病虫害対策

ア 炭そ病、軟腐病、灰色かび病、葉腐れ細菌病等の予防のため、防除指針に従い薬剤を散布する。

イ 灰色かび病対策として、早めに暖房機を点検の上、加温準備を行う。

3 ベゴニア

(1) 病虫害対策

斑点細菌病等の予防のため、防除指針に従い薬剤を散布する。

4 カーネーション

(1) 病虫害対策

斑点病、アザミウマ類、ヨトウムシ類等の予防のため、防除指針に従い薬剤を散布する。

5 ストック類

(1) 病虫害対策

コナガ等の防除のため、防除指針に従い薬剤を散布する。

6 キク類

(1) 栽培管理

停電により電照が4日以上できなかつた場合は、その後電照を開始すると成長点が止まって柳芽になり、正常に開花しない可能性がある。その場合は、植え替え又は、地ぎわまで切戻して仕立て直しを検討する。

(2) 病虫害対策

アザミウマ類、ヨトウムシ類、白さび病等の予防のため、防除指針に従い薬剤を散布する。

7 植木類

(1) 病虫害対策

樹勢の低下により、細菌病、糸状菌病等の病害が発生しやすくなるため、防除指針

に従い薬剤を散布し、病気の予防に努める。

【作 物】

1 水稻

(1) 水田や道排水路の農業生産基盤の点検と修繕

ア 水田の畦畔等の崩れや漏水箇所の修繕を行う。畦畔の崩れを補修する場合は土のうや杭等の基礎固めをしっかりと行う。

イ 水利施設のポンプや用排水路の修繕を行う。用排水路等にゴミや土砂の流入で詰まりがある場合は速やかに取り除く。

ウ 収穫後の稲わらが台風で流され水田の一部に片寄って集積している場合、部分的に稲わらを過剰に鋤き込むと植付障害やガス沸（還元障害）を引き起こすため、集積した稲わらは均一に散らし鋤き込み、1～2回多めに耕うんして稲わらの腐熟を促す。

(2) 農業用施設・倉庫等の修繕

ア 二次被害を防止するため、損壊箇所の補強や修繕を行う。ビニールハウスや施設の破損状況をよく確認して、早めに補強や修繕するなどし、破損を広げない

イ 農業用施設の雨漏りが無いか確認し、雨漏りがある場合は、早急に修繕を行う。すぐに修繕できない場合は、防水シート等で施設内の資材や農機具等を濡らさないように保護する。

ウ 農業機械や器具の電気類がショート故障している場合があるので、早めに点検する。なお、浸水した場合は、漏電や火災の危険があるため、点検前にスイッチは入れないで、最寄りの農機センターや整備業者等に相談する。

(3) 育苗ハウスの損壊にともなう育苗対策

ア 育苗ハウスが損壊している場合は、早期の再建を目指す。現状規模まで回復が困難な場合は、1棟当たりの育苗回数を増やすなど作業計画を変更する。

イ 育苗施設が足りない場合は、露地プール育苗技術^{*}やトンネル育苗等の代替技術により育苗する。

(^{*}露地プール育苗技術については、農林総合研究センターの試験研究成果から、技術情報を提供する予定)

ウ 育苗ハウスの再建や育苗ハウス代替技術が困難な場合は、JA等の水稻育苗委託業者から苗の手配ができるよう、早めに申し込みを行う。

エ 育苗の遅れにより移植時期が遅くなると、稈長が伸びやすくなり、倒伏しやすくなるので注意する。特に、晩植のコシヒカリ等は、倒伏しやすいので、基肥の窒素分量を標準よりも減らし、株間を広げるようにする。

2 大豆

(1) 栽培管理

冠水や風雨により落莢が多かった株では、収穫時期に青立ちする可能性があるため、収穫の際は、青立ち株を除去するなど汚粒が発生しないように注意する。

また、倒伏しているほ場を汎用コンバインで収穫する場合は、収穫ロスや土の

かき込みによる汚粒の発生を防止するため、向刈りを行う。

3 落花生

(1) 栽培管理

風雨による茎葉の損傷により、収穫時の落ち実が多くなることが予想されるため、収穫遅れにならないよう、試し掘り等を行って適期収穫を心がける。

【畜 産】

1 飼料作物

(1) 飼料作物

ア 今後収穫作業を迎えるWCS用稲については、排水対策を徹底し、大型収穫機による作業に備え田面を固めるとともに、植物体の水分率をできる限り低下させ、品質低下の防止に努める。

イ 倒伏等により収穫を断念した飼料作物は、すき込み等を行う上で支障がない様にフレール型草刈機等で細断する。

(2) 稲わら

稲わらの収穫を行う場合は、乾燥させた後、土汚れ等が無いことを確認した上で飼料に用いる。

2 畜産関連施設機械

(1) 畜産関連機器

停電による発電機の利用で、井戸ポンプ、換気ファン等の畜産関連機器の故障が報告されている。自農場の機器類について、異音や回転不足、能力低下等の稼働状況を確認するとともに、必要に応じ販売業者の点検を受ける。

(2) 浄化処理施設

停電による浄化槽の運転停止で、汚濁成分の滞留や散気装置の不調等により浄化能力の低下が懸念されるため、製造メーカーの点検を受けるなど、浄化槽の処理水の品質低下に留意する。